

## 牧場内に生息する食肉目の巣穴利用について

麻布大学 野生動物学研究室

鷲田 茜・南 正人

キーワード：センサーカメラ、巣穴、食肉目、アナグマ、キツネ、タヌキ

### <背景・目的>

群馬県下仁田町にある神津牧場は、山間部に位置することから多くの中大型哺乳類が生息している（塚田ら 2007）。採草地の1つである吹雪原という場所では、隣接した林内に複数の巣穴があり、山地に広く生息するとされているアナグマ (*Meles meles*) やアカギツネ (*Vulpes vulpes* 以下、キツネ) などの食肉目の動物が使っている可能性がある。アナグマやキツネは巣穴を掘る（中園 1970；阿部 1971；山本 1989）が、タヌキ (*Nyctereutes procyonoides*)・ハクビシン (*Paguma larvata*) は自分で巣穴を掘る行動は見られず、アナグマやキツネが掘った巣穴を共同で利用するといわれている。アナグマの活動期間は4月から11月（金子 2002）であり、10月下旬から翌年3月にかけて穴ごもりをする（金子 2004）。キツネが子育て期（冬～春）に利用する穴をアナグマが利用することもある（金子 2002）。本研究では、この巣穴を利用する食肉目を特定することを目的とした。

### <方法>

#### ・センサーカメラによる巣穴周辺の動物調査

巣穴を利用する動物種を特定するために、2013年4月下旬から11月下旬にかけて、吹雪原の林内にある巣穴5か所の前に赤外線センサーカメラ（Bushnell社製、以下、カメラ）を設置しビデオモード（1分間撮影）で撮影した。

### <結果と考察>

食肉目が利用していると考えられた巣穴は4箇所であった（F3・F5・F6・F7）。また、ニホンジカ (*Cervus nippon*) やイノシシ (*Sus scrofa*)、ツキノワグマ (*Ursus thibetanus*) に関しては撮影されていても図には示さない。

各巣穴の動物種の撮影回数を図1に示した。F5では、他の食肉目を比べるとアナグマが最も多く撮影されたことから、アナグマが巣穴を利用している可能性が高かった。また、巣穴の前で毛づくろいの行動が頻繁に見られたことから、巣穴の出入りに関係のある行動ではないかと考えられた。F3・F6・F7に関しては、動物による撮影頻度の差が大きいものはなかった。

各巣穴の食肉目3種の利用状況を表1に示した。F3・F5の巣穴では、アナグマは7月から8月にかけてよく撮影された。東京都日の出町では、アナグマは夏になると4月に生まれた子どもが母親と共に巣穴から出て、餌の探し方を覚えるようになる（金子 2000）。F5での撮影が多いのは、繁殖活動を行っていることが予想された。しかし、

アナグマの複数個体が撮影されていることも、幼獣が撮影されていることもなかった。アナグマの坑道は非常に長いと言われているので、他にも巣穴があるのかもしれない。また、9月から減少する傾向にあるのは、冬の穴ごもりに近づくとつれて活動しなくなったのではないかと考えた。

F3・F5・F6の巣穴では、キツネは10月から11月にかけて少しであるが撮影される傾向にあった。巣穴の匂いを嗅ぐ行動が頻繁に見られたこともあり、子育てをするための巣穴を探しているのかもしれない。またタヌキは季節に関わらずよく撮影され、2頭連れで行動をしていることが多かった。

1分間のビデオからは巣穴を利用しているかどうかを断言することはできなかった。しかし巣穴の前で行われる行動や季節によって撮影される動物種が異なることから、利用している可能性がある食肉目を絞り込むことができた。今後は、新たな巣穴探しと巣穴の内部構造について調査する予定である。

本調査にあたっては、公益財団法人神津牧場にご協力いただいた。感謝致します。

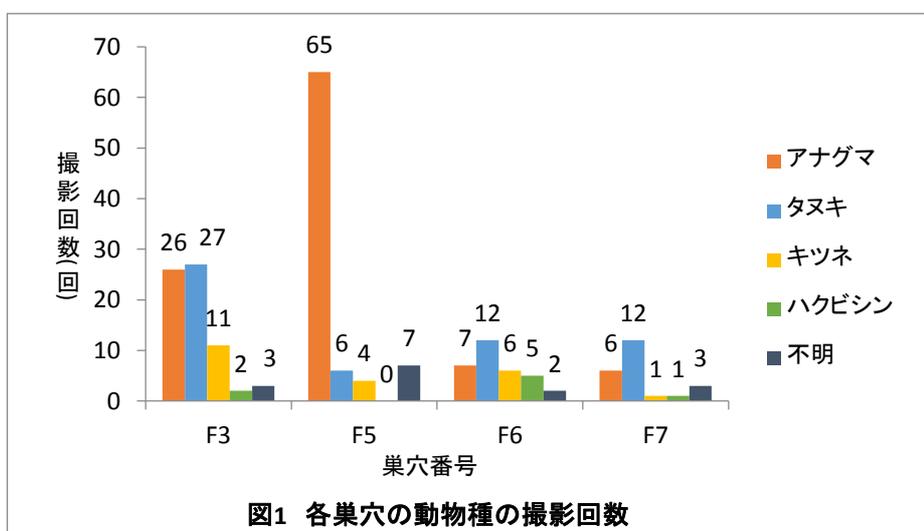


表1 各巣穴の食肉目3種の利用状況

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
F3	アナグマ	■	■	■	■	■	■	■
	タヌキ	■	■	■	■	■	■	■
	キツネ		■			■	■	■
F5	アナグマ		■	■	■	■		
	タヌキ	■	■	■	■	■		■
	キツネ		■					■
F6	アナグマ			■	■	■		
	タヌキ			■	■	■	■	■
	キツネ				■	■	■	■
F7	アナグマ			■	■	■		
	タヌキ			■	■	■	■	
	キツネ				■			■